

ナシ類開花：南部 4/20 頃、北部 4/25 頃。生育は、平年並み～やや遅い状況です。本年も開花期、結実後に凍霜害に遭遇する可能性があるため、防霜対策は万全に行ってください。また、土壌乾燥も心配されるため保水管理の徹底もお願い致します。

和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する）

5月上旬の薬剤散布（前回から約15日後）

散布時期：5/5～5/10 頃（左記は散布の目安となります）		◆ 散布日：4月 日
散布薬剤	水	◆ 散布量： リットル
	展着剤	
	⑧カナメフロアブル	
	25ml	（前日、3回）
*ご購入の際は、印鑑をご持参下さい		
対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病		
散布量：10a 当り 350 リットル		
～注意事項～		
①アブラムシ類対策：ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。		
②葉色が薄い場合や黄化が見られる園は、ビッグマグ 1,000 倍又はグリーンデイズ 1,000 倍を加用する。		

5月下旬の薬剤散布（前回から約15日後）

散布時期：5/20 ～ 5/25（左記は散布の目安となります）		◆ 散布日：5月 日
散布薬剤	水	◆ 散布量： リットル
	展着剤	
	トレノックスフロアブル	
	200ml	（30 日前、5 回）
	トランスフォームフロアブル	
	50ml	（前日、3 回）
対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病、 アブラムシ類、カイガラムシ類、（カメムシ類）		
散布量：10a 当り 350 リットル		
～ 注意事項 ～		
① 訪花昆虫保護のため、指定薬剤及び時期を厳守して下さい。		
② 葉色が薄い場合や黄化が見られる園は、ビッグマグ 1,000 倍又はグリーンデイズ 1,000 倍を加用する。		



西洋梨の定期防除・葉面散布については裏面をご覧ください。

西洋梨の定期防除 (収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する)

5月上旬の薬剤散布 (前回から約15日後)

散布時期	5/5 ~ 5/10 (左記は散布の目安となります)	◆ 散布日: 5月 日
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10ml ⑧ モスピラン顆粒水溶剤 25g (前日、3回) ベンレート水和剤 50g (前日、4回)	◆ 散布量: リットル
対象病害虫	輪紋病、胴枯病、アブラムシ類、カメムシ類、シンクイムシ類	
散布量	10アール当り 400 リットル	
注意事項	① 訪花昆虫保護のため、指定薬剤及び時期を厳守してください。 ② 腐らん病感染拡大防止のため、病斑部削り取りトップジンMペースト等を塗布する。 ③ モスピラン顆粒水溶剤は劇物です。ご購入の際は印鑑をお持ちください。	

◆ 西洋梨5月上中旬の重点作業

① 主枝・側枝誘引

- ◆ わい性台樹: 次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために必ず実施する。
- ◆ 普通樹: 主枝候補枝の誘引。オーロラは45度、ラ・フランスは30度を目安に誘引する。

② 予備摘果 (満開10日後から始める。)

- ◆ 結実状況を確認したら早急に実施する。(初期肥大促進)
- ◆ 基本的に弱い果そうは摘果するが、花芽が少ない場合は弱い果そうも利用し着果量を確保する。



③ 腐らん病対策

- ◆ 早期多発傾向です。梅雨に入る前に早めの病斑部の削り取り等の抑制対策を講じて下さい。
- ◆ 病斑を放置すると感染拡大します。見つけしだい削り取り処理や切除を行って下さい。
- ◆ 削り取り後は、塗布剤(トップジンMペースト等)を塗布する。また、大きなせん定の切り口等の感染源保護も確実に行って下さい。

葉面散布について

定期散布時に農薬と混用が可能です。

資材名	保証成分量	目的	倍率	使用時期	規格
葉友	N-5%、P-0.1%、K-0.3%	光合成促進	2,000倍	今回定期散布~3回	1ℓ 4ℓ
ビビッドグリーン	N-7%、P-6%、K-4%、Mg-1%	葉色、健全葉維持	500倍	今回定期散布~3回	1.2kg
液肥硫酸マンガン	水溶性マンガン13.5%	マンガン欠乏対策	200倍	落花30日後 落花40日後の2回	1kg
グリーンデイズ	Mg-16%、Mn-9%、B-2.5%	苦土欠乏対策 微量元素補給	1,000倍	今回定期散布~3回	1kg

- ◆ *N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素